稲城野草散策の会

野草スケッチ　シオデ（ユリ科）

1996/07/18　　稲城市坂浜　　絵と文　Ｔａ

秋田に「秀子節」という民謡がある。
「十七ハナア　今朝の若草　どこでかったナア　このひでこナア」
（東京楽譜出版社発行、日本民謡俗曲集より）
まるで秀子という若い女性を買ったみたいな歌詞だが、そういう意味ではない。
「ひでこ」とは、シオデのことなのだ。

会報第８１号　２０１１年9月3日発行　発行責任者　尼子　房夫

シオデ→シオデコ→ショデコ→シデコ→ヒデコと変化して、秀子になったのだという。
シオデは東北地方で珍重される山菜なのである。

山菜としては春先の新芽を利用する。
信州にいた頃、何度か食べた。
蔓の先端を摘んで、ゆでてマヨネーズをつけて食べるのがよい。
アスパラガスと同じ食感、同じ味がする。
まさに山のアスパラガスである。
シオデファンに言わせると話が逆になる。アスパラガスは畑のシオデなのだそうだ。

シオデは稲城にもあるが、量的に少ないので、食べたことはない。
しかも、信州で見たような太い新芽はほとんどなくて、ひょろひょろしたものばかりだ。
ひょっとして、信州で食べたのは、よく似たタチシオデだったのかもしれない。
タチシオデは新芽の頃は直立している。味は同じだと思う。
当時は、シオデとタチシオデの区別はしていなかった、というか、わからなかった。

シオデを摘むのは春から初夏にかけてだ。
このスケッチは７月なので、食べるには時期が遅い。
シオデを山菜としてしか見ていなかった頃は、花には気づかなかった。
食用としての呪縛？から逃れたときに、ほんとうの姿が見えてくるのかもしれない。
自然を欲得で見るような不心得では、自然も胸襟を開いてくれないのだ。

シオデの花は、柄が放射状に広がったその先に付く。
やがて実ができ、黒く熟す。実のかたまりは、球形になる。
何かに似ていると思ったら、花屋さんではサンキライなどと称しているサルトリイバラに、実のつき方がそっくりだ。黒と赤の違いはあるが。
そういえば葉も似ている。

調べてみたところ、どちらも同じ属であった。
ユリ科シオデ属と呼ばれる。

「なんでこれがユリ科なんですか」という質問をよく受ける。
「一つ一つの花を拡大して見ると、ユリと同じ造りなんだそうです」などと説明しているが、正直いうと、自分でも納得できていない。
「ほら、ネギの花をネギボウズっていうでしょう、あれもユリって感じじゃないけどユリ科なんですよ。ユリ科の中にはそういうグループもあるんです」でごまかしてしまう(^_^;)

植物の分類体系というのは難しい。
シオデとかサルトリイバラという「種（しゅ）」が基本にあって、似た特徴を持った種を「属」にまとめている。属をさらにまとめて「科」と呼んでいる。
・・・というのが大きな流れなのだが、しょせんは人間の都合で決めたことにすぎない。
そのため、学者によっては別の属になったり、科まで変えられることもあるという。

われわれ素人としては、図鑑を引くための記号として「科」「属」「種」がある、くらいに考えておけばよいと思う。
深入りは禁物である。（２０００年７月記）

＊　＊　＊　＊　＊

〔観察記録〕８月１９日　富士山新五合目

８月２０日　田貫湖（バスハイク）

バスハイクは毎年恒例の行事ですが、１泊のバスハイクは、稲城の会では初めての試みです。調布駅近くの集合場所には、３１人の参加者が時間通り集合してくれました（あと１人は現地集合）。
７時半に予定通り出発、平日のため中央道はスムーズに流れ、すんなりと「道の駅すばしり」に到着、ここからは、２日間かけて、時計回りに富士山麓をバスで１周する予定です。
須走からは富士山スカイラインで新五合目を目指します。新五合目の少し手前から、観察が始まりました。雲がどんどん厚くなり、いつ雨が降り始めてもおかしくない気配なので、この辺の観察は早めに終わらせたいところでしたが、参加の皆さんは熱心でなかなか前に進めません。それでも昼前には新五合目にたどり着いて、早めの昼食タイムとなりました。その途端、案の定というか、雨がザッ

と降り始めました。ところが昼食が終わる頃には、運よく雨が上がったので、予定通り宝永火口へ向かいます。このあたりの標高は２４００mほど、森林限界の高さです。私達が歩いたコースは、シラビソ、カラマツ、ダケカンバなどを中心にした樹林地帯でした。４０分ほど歩くと、突然視界が開けます。宝永火口です。視界が開けたと言っても、ガスは濃く、遠くはまったく見えなかったのですが、そろそろ引き返そうかという頃に、突然ガスが引いて雄大な宝永火口を見ることができました。

新五合目から、バスで麓を目指します。観光気分で、白糸の滝に立ち寄る予定だったのですが、滝近くの駐車場に着いた頃には、もうドシャ降りになってしまいました。しばらく車内で様子を見ていたのですが、とてもバスから外に出ようという気持にはなれない雨勢が続いたので、白糸の滝観光は中止にして、宿泊場所に向かいます。

この日の宿泊場所は、竹越さんのご尽力で、朝霧高原にある竹越さん母校のセミナーハウスを、びっくりするほど安い料金で利用することができました。今回の参加費用が、これまで時々開催してきた１泊バスオフの６割程度の金額におさまったのは、ほとんどこのセミナーハウスを利用できたおかげです。竹越さんにひたすら感謝です。

私のような年齢の人間にとっては、大学のこのテの施設は「汚い、マズい、管理者は居丈高」と相場が決まっていたのですが、案に相違して、ゆったりとして、こざっぱりした造りで、なおかつ風呂もなまじの旅館よりもはるかに広い。管理スタッフも物腰が柔らかで、とても大学の施設とは思えないようなものでした。夜も朝も食事はバイキング形式で、自分の好みに合わせて、質も量も調節できます（私はちょっと食べ過ぎてしまいましたが）。食事後は例によって、パソコンとデジカメとプロジェクターによる、この日の観察の復習、さらには、和室に集まっての「ささやか」と、盛り沢山のメニューが続きました。当然、広沢さんのカンカラ三線の独演会もありました。

２日目は、田貫湖を目指します。地元の人の話では、田貫湖は昭和戦前期に作られた農業用灌漑池なんだそうです。今では、周辺に国民休暇村のような施設が作られて、観光地となっています。湖に着いた頃はまだ、結構な雨が降っていたのですが、小田貫湿原入口にさしかかった頃には、ほとんど雨はあがっていました。田貫湖から小田貫湿原までは７００mほど、普通に歩けば１０分の距離ですが、この道も興味深い観察コースでした。別名フジザクラとも呼ばれるマメザクラや、関東では珍しいカナウツギがそこらじゅうに生えていて、なかなか前には進めません。小田貫湿原にたどり着いた頃には、また雨も降ってきたので、湿原

手前の四阿屋で昼食タイムとなりました。この日の昼食は、竹越さんが朝霧高原のコンビニに予約してくれたおむすび弁当です。出発時に配布したペットボトルのお茶と併せて、参加費用の枠内です。

昼食後は、またまたうまい具合に雨が上がっていて、湿原の観察となりました。ちょうどこの時期は、夏と秋の端境期になっていて、花がいささか寂しいタイミングでした。それでも丹念に見ていると、夏の花が少しづつ残っていて、それなりの成果はあったと思います。

帰路は「道の駅なるさわ」に寄ってから高速に入りました。これで、富士山麓を一周したことになるのですが、残念なことに富士山の雄大な姿を見ることは一度もありませんでした。それでも、ドシャ降りの中を歩かずに済んだのは、僥倖と言うべきでしょう。（とーはもん）

▼最後にアナウンスのあった植物を列挙します。

１日目・富士山新五合目周辺

ヨツバヒヨドリ(花)、ミヤマシャジン(花)、オノエイタドリ(花)、ヒメシャジン(花)、ヤハズヒゴタイ(花)、コウゾリナ(花)、ミヤマアキノキリンソウ(花)、キオン(花)、タイツリオウギ(花)、ミヤマオトコヨモギ(花)、アマニュウ(花)、ミネヤナギ、ミヤマハンノキ(実)、タチコゴメグサ(花)、トモエシオガマ(花)、ヤマハハコ(花)、イワオウギ(花)、イブキボウフウ(花)、グンナイフウロ(実)、クマイチゴ、ダケカンバ、カラマツ、ハナヒリノキ、シラビソ、コバノイチヤクソウ(花)、シロバナノヘビイチゴ(実)、ヒメノガリヤス、ヤマブキショウマ、エゾスズラン(花)、ハナイカリ(花)、コケモモ、ムラサキモメンヅル(花)、オンタデ、キンレイカ(花)

２日目・田貫湖／小田貫湿原周辺

アオツヅラフジ(実)、ノブドウ(実)、リョウブ(花)、ムラサキシキブ、ヤマグワ、オニドコロ(花)、シシウド(花)、ブタクサ、キンミズヒキ(花)、センニンソウ、カナウツギ、サルトリイバラ、ヤブウツギ、ヒメキンミズヒキ(花)、バッコヤナギ、クマシデ(実)、オトギリソウ(花)、ミズナラ、ヌマトラノオ(花)、ヒメシロネ(花)、バライチゴ、ヒメシダ、アブラチャン、マメザクラ、コアジサイ、ミツバウツギ(実)、シオデ、ウツギ、シシガシラ、コウヤワラビ、サワフタギ、シュロソウ(花)、キヌタソウ(花)、チダケサシ、タムラソウ、ウリハダカエデ、コバギボウシ(花)、ヒメヤブラン(花)、イヌゴマ(花)、アブラガヤ、イボタノキ、ユウガギク(花)、マメザクラ、イヌツゲ、イワガラミ、ヒメシダ、ヘビノネゴザ、ワラビ、アキノタムラソウ(花)、ガマズミ、アサマフウロ(花)、ヌマトラノオ(花)、チダケサシ、サワヒヨドリ(花)、ヤマアワ、コオニユリ(花)、ノリウツギ、クサレダマ(花)、オモダカ(花)、ヤマドリゼンマイ、サワシロギク(花)、サンカクイ、ヒルムシロ、ミズオトギリ、

サワギキョウ(花)、コガマ、ワレモコウ(花)、チョウセンキンミズヒキ(花)、アゼスゲ、タマアジサイ(花)、イヌザンショウ(花)、フシグロセンノウ(花)

▼富士山バスハイク

富士山バスハイク参加のみなさま、お疲れさまでした。

とーはもんさん、記録ありがとうございます。

秋雨前線が南下するという予報の中、どしゃぶりもありましたが、幸いバスの中で、歩いた間は霧雨程度で済んだのはたいへんラッキーでした。

宝永火口は風衝地で、強い風が吹いていることが多く、予報でも１０m／ｓほどの風でしたが、われわれがいた間はそよ風程度だったのもラッキーとしか言いようがありません。

強烈な晴れ男のＦＡMさんが遠くから祈っていたのかも、という気がしました。

植物もたくさんの花たちが出迎えてくれて、多少の雨は気にならないほどでした。ヒメシャジンとミヤマシャジンは変種の関係で、萼片の鋸歯で区別できるのですが、現地では私もこんがらがって、逆に説明したりしてご迷惑をおかけしました。お配りした資料の説明が正しい見方です。

ヨモギ属は区別が難しく、即答できませんでした。

ミヤマオトコヨモギは現地で説明したとおりですが、もう１種類はオオヨモギだろうと思います。

まだ写真のチェックも途中までなので、も少しチェックしてから。画像とともにアップします。

参加されたみなさまからも、どしどし写真をアップしていただければ、うれしい限りです。どうかよろしくお願いいたします。

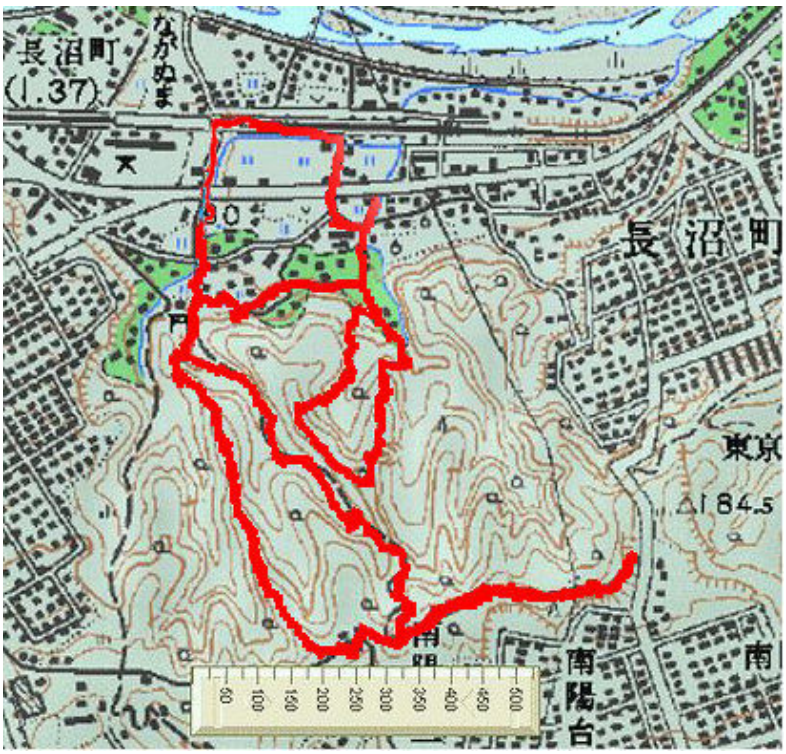
それにしても、ぽんこさんのおかげで、格安の宿泊施設を利用できたのも、ありがたい限りです。下見の際、「酒はビールの自販機しかないから、飲みたい分だけ持ち込んでくれ」という管理人さんのお話には感激しました。そういうことを言う宿ってあんまりありません。（建前は持ち込み禁止。でも持ち込み黙認、が多いように思います）。

雨のおかげで？早い時間に帰途につき、途中の渋滞もなく調布に帰りつけたのもラッキーでした。ま、それよりも事故もなく無事に帰りつけたことこそラッキーというべきなのかもしれません。

ま～、稲城の会のみなさんの行いの正しさが証明されたということです！

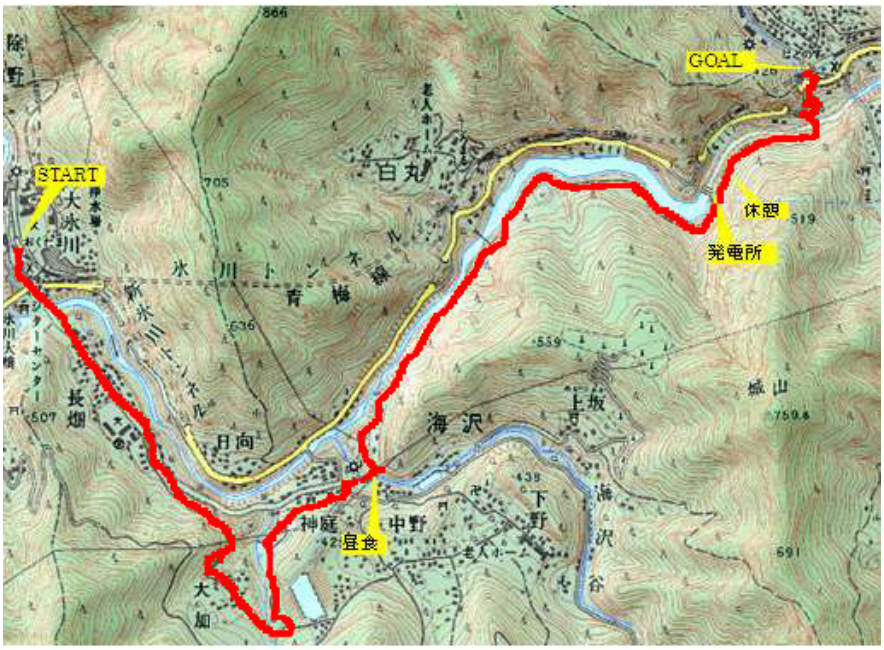
参加されたみなさま、ありがとうございました。（Ｔａ）

〔行事予定〕2011/9/3（土）　長沼公園

項　目	説　明
集　合	ａｍ１０時、京王線長沼駅・改札口付近　※会旗目標 長沼駅の改札口は一個所だけです
交　通	京王線京王八王子行きまたは高尾山口行きをご利用下さい 長沼駅には、急行、準特急、特急は停まりません。快速、各駅停車をご利用下さい 急行、準特急、特急をご利用のときは、高幡不動でお乗り換え下さい
行く先 (解散場所)	長沼公園内観察、ｐｍ３時半頃解散予定
見所 その他	樹木ほか
地　図	
コース	長沼駅→長沼公園入り口→西尾根の道→頂上園地（昼食・トイレ）→平山口→霧降の道→長泉寺尾根→長沼駅（解散：ｐｍ３時半頃）

※小雨決行　参加申込み不要、会費当日３００円

〔行事予定〕2011/10/23（日）　奥多摩渓谷

項　目	説　明
集　合	ａｍ１０時、ＪＲ青梅線・奥多摩駅前　　※会旗目標 奥多摩駅の改札口は一つです
交　通	奥多摩駅はＪＲ青梅線の終点です 新宿から乗換えなしで運行している「ホリデー快速おくたま３号」が便利です。ホリデー快速おくたま３号時刻表 新宿発８：１９→立川８：４７→奥多摩着９：５０ ホリデー快速の後ろ４両は五日市行きですので、前６両に乗ってください
行く先 (解散場所)	東京都奥多摩町、（解散）鳩の巣駅１５時半頃
見所 その他	野菊
地　図	
コース	奥多摩駅前～長畑～神庭～海沢～数馬渓谷～白丸湖～鳩ノ巣渓谷～鳩ノ巣駅 コースは天候その他により変更する場合があります ご用のある方は途中で抜けても構いません

※　小雨決行　参加申込み不要、会費当日３００円